

年頭所感



新年挨拶

おおさか市町村職員研修研究センター所長 齊藤 慎

平成20年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

大阪の経済も、遅まきながらかなり回復し、これにつれ明るい話題も増加しております。有効求人倍率に代表される雇用情勢の大幅な改善が何と云っても特筆すべきことです。平成14年頃には大阪でも0.4程度と極端に低く、全国平均をかなり下回っていました。大阪の数値が全国平均を下回るとは信じがたいことですが、それだけ事態が深刻であったことを示していたものと思います。

もともと大阪は経済的には日本の中でも重要な地位を占めてきましたが、バブル崩壊後は落ち込みが特に厳しく、他地域と比較しても手ひどいダメージを受けたと考えられます。このことが大阪にある地方公共団体の税収および財政状況悪化に与えた影響も大きく、北海道と並んで大阪も財政状況のもっとも悪い地域として知られていました。

それが、最近では有効求人倍率1.30と1をかなり上回るようになっており、また全国平均より高くなって景気回復を裏付けています。ただ、経済活動を全般的に示す県内総生産からみて、過去の景気拡大時と大きく異なるのは、拡大の規模が数パーセントときわめて小幅なことです。さらに、大阪と経済的に密接なつながりのある周辺地域の経済が依然として落ち込み続けていることも大きく響いております。これが景気回復を実感できなくしている一つの要因といえます。といっても、戦後の驚異的といわれた高度経済成長期のような成長率は今後も望めないと思われれます。

最近までの経済学の理論的研究においても、国レベルでみた経済成長率が収束するという結論が得られています。すなわち、初期の経済活動水準が低いほどその後の経済成長率が高くなり、逆に初期の経済活動水準が高いほどその後の経済成長率が低くなることを意味しています。高成長率はいつまでも続かないという点で、なんとなく直観的にも領けそうな結論です。ただし、ここでは煩雑になるので詳しくは触れませんが、理論的分析ですので、技術進歩など一定と置いている条件もあります。

これを地域に当てはめて考えると、大阪などの豊かな地域は今後それほどの高成長は望めないこととなります。もっともこの分析の対象とする期間はかなり長いので、短期的な成長率の動向は不明です。しかし、それではこの結論が東京にも適用できるのかと疑問に感じられると思います。日本ではもっとも経済活動水準が高い地域の経済成長率

が高い現象が見られるからです。この点は、人口集中や年齢構成にも依存すると思われ
ますが、これまでの研究成果では「東アジアにおける非収束」現象と呼ばれることに関
連し、人的資本への投資を行っている国の経済成長率が高まるとの実証分析の結果が出
ています。

経済学においては、すこし前までは労働力はその時々で供給される消耗品に近い扱い
でしたが、近年の研究では労働力を産み出す人的資本（human capital）と考えられ
るようになってきて、企業の所有する設備・工場などの資本ストックと同じように扱わ
れます。つまり、労働力の「質」が財・サービス生産へ与える効果が考慮されます。こ
のことは、経済活動が高度になってきたことと密接に関連していると思われま
す。つまり、明治初期の繊維産業などに代表される職場での労働は典型的な単純労働
でしたが、経済が高度化すると労働者にもいろいろな能力が求められるようになって
きます。これに応じて職場内外で労働者に教育・訓練がなされます。この結果、同
じ労働者の提供する1時間の労働の価値が上昇して、高度な作業・事務ができるよ
うになります。

このように、豊かな大阪の経済成長率が低下し続けられないための一つの条件は、そ
こで働く人々の「人的資本」を不断の努力で向上させることです。

マッセO S A K Aは市町村職員の研修事業と研究事業を並行して行っており、研修事
業と研究事業が相まって教育成果を挙げることができるとのユニークな考えに基づい
ております。他の研修機関との違いは、研修成果を研究に活かすことができる、また
は逆に、研究成果を研修に活用できる、という研修と研究の有機的な連関を重視し
ていることです。受講者の知識レベルを上げるためにも、また知識レベルの高い受
講者に適切な教育環境を提供するためにも有意義な仕組みと考えております。

今後とも、市町村職員の研修・研究に役立つ組織であるために、努力してまいり
たいと考えております。そのことが全国でも例をみない教育組織であるマッセO S A K A
の使命であり、そのことを通じて大阪府内市町村の行政活性化や政策形成能力向上
に資することができればと願っております。

最後になりましたが、本年が素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます
とともに、皆様方のご健勝とご多幸を祈念致しまして年頭のご挨拶といたします。